

教育後援会通信「ちから」



保護者見学会にて(ソニーイーエムシーエス㈱)



バス車中にて(学校より説明)

保護者見学会に参加して

教育後援会副会長 藤 野 勝 司



毎日仕事が忙しく、子供に関することは、ほとんど妻に任せきりの私でしたが、今回教育後援会の役員をお引き受けしたことをきっかけに、保護者見学会に初めて参加させて頂きました。

当日驚いたことは参加者が非常に多く、父親の方も何人かいらしかったことです。

ソニーイーエムシーエス㈱の見学では岐阜高専卒業生の方で、管理職クラス・中堅クラス入社3年目の3名の方々に、それぞれの立場でのお話を頂きました。そんな中、積極的に質問をされているのは父親の方々でした。その姿を見て、自分がいかに子供のことに無関心だったのかを痛感することになりました。(少し落ち込みました。)しかし、キリンビールの工場を見学後、ビールを試飲させて頂き、私にとって緊張を和らげるのに非常によい薬となりました。皆さんも同様、心が和んだ様子で、つい時間のたつのも忘れてしまう程リラックスしてみえたようでした。

今後、高専の法人化に伴い授業内容など学校の体制がどのように変化するのか、それが進学・就職にどのように影響するのかと、親としては多少の不安がありました。車中にて先生より進学・就職についてのいろんな情報を提供して頂き、不安も少し払拭することができ、改めてこの会に参加させて頂いて良かったと思いました。

我が家は娘が二人います。世間では娘がある程度の年齢になると父親との会話が少なくなると言われていますが、その夜は娘と見学会で得たいろんな情報を話す機会を持つ事ができました。

父親として子供の成長と共に子供とかかわる機会が少なくなっていく中で、子供と将来について会話ができたことを喜ばしく思えたのは私だけでしょうか？

来年は私のように、子供に関わる事の少ない父親の方の多くの参加を期待しています。

地区懇談会に参加して

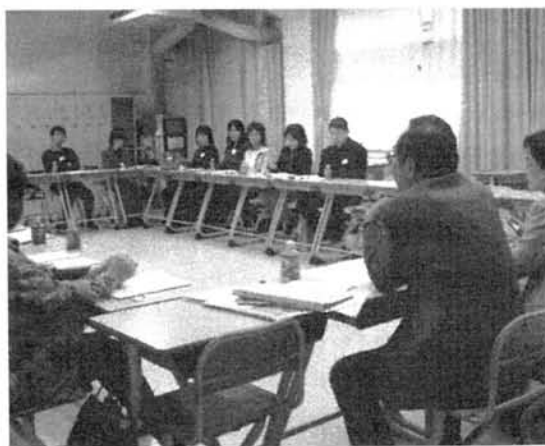
美濃・可茂地区理事 筒井千広

私の地区は、美濃・可茂地区です。出席者数は30数名と総学生数に対して約3割の出席率でした。それに対して学校関係者の皆様は、校長先生をはじめ約10名と各分野担当の先生方のご出席をいただきました。校長先生のお話は、高専の現況・将来の展望と、私たちにとって非常に安心させられる事ばかりで、特にJABEE(日本技術者教育認定機構)には関心がありました。

次に、寮務関係のお話がありました。この地区の学生のほとんどは、寮生であり、身近な話題で親にとっては、何とか卒業するまで寮生活ができるよう、祈るばかりです。休憩後、分科会になり、私は、1・2年の会場にてお話を聞きました。その話題の中で特に多かったのは、A寮の生活は楽しいという事でした。建物の改修は、毎年の話題となっていますが、住めば都というように皆、順応していて、高専生活の中で、A寮生活期間は、人間社会の何かを体験できる良き生活の場だと思います反面、学習面にご心配されている親さんもありましたが、卒業まで5年間のうち勉強を今以上にやらなければならない時は、必ずあります。環境抜群の高専だとそれは可能です。スポーツをするのにも同様です。広いグラウンド・体育館等…来年の夏には、全国高専大会が地元で開催される種目(野球・柔道)もあります。スポーツのさかんな活気ある岐阜高専となり、また良き思い出となるよう一保護者として応援したいと思います。



愛知県地区全体会(校務報告)



岐阜地区E科分科会

愛知県地区保護者懇談会に参加して

愛知県地区理事 長谷川 一博 (良子)

愛知県地区は学生の大半が西尾張地方に集中しており、今年も一宮市産業体育館で平成15年度愛知県地区保護者懇談会が11月15日(土)に開催されました。

当日は肌寒く雨交じりのなか、保護者49名と学校側から多数出席頂き懇談会が始まりました。

まず始めに、学校側から日頃の学校生活・勉学・クラブ活動・就職及び大学編入学等進路状況など、多岐にわたり説明をして頂きました。中でも揖斐・市内線及び樽見鉄道の存続問題に付いては、保護者の関心が高い事柄です。当地区の自宅通学者は8割以上で、1～3年生はJR東海道線or名鉄名古屋本線を利用している為、「今後の通学方法が心配」との声に、この件には「学校としても対策を検討中」との回答が頂きました。また、JABEEの認定校になると、就職後に有利になる事。その他…。

＊1・2年生の分科会においては、

- ・保護者からは、伸びやかな学校生活を送っているとの声が多く聞かれました。
- ・2年生から専門教科が難しく不安(分らない)の問いかけに、先生よりオフィスアワーの設置があり大いに活用してほしいとのこと。
- ・ロボ研にあこがれ高専を選んだとの声も多く、この所『ロボコン』に出場しても残念な結果に終り、学生の「ロボコンにかける情熱」に、学校側もいっそうバックアップをしてほしい。

＊3・4・5年生の分科会においては、

- ・進路に関して具体的な話し合いがなされました。(目標達成に先生はかなり協力的)
- ・就職するには…就職したい方向を早く決めておく。インターネットで会社の方針を知ること。求人が来たら早く決める。インターンシップの研修に参加する。
- ・大学編入学するには…5年間の成績(1～4年)。推薦・学力、6月以降。
- ・専攻科へは…全教科65点以上であれば合格。定員は融通あり。
- ・研究生…就職も進学もできなかった学生に一年間卒業研究の続きをさせる。(レポート提出あり)
- ・車通学するには…駐車場の確保(学校周辺にあり)。学校に必要な届出は必ず出すこと。交通ルールを守ること。専攻科は校内に駐車場あり(無料)。

上記のほかにも、活発な意見交換がおこなわれました。先生方や保護者の方々と接することで、アドバイスや情報を頂き「我が子」との話題作りにしませんか？

地区懇談会に皆さんも是非、参加なさっては如何でしょう。

「学校はいま？」 一時の話題、課題を探る

岐阜高専海外インターンシップ事業

専攻科長 河村 隆雄

近年、日本の技術者の海外での積極的な活躍が期待されていることから、本校専攻科では、本年より海外でのインターンシップを実施することになりました。とは言え、学生がいきなり外国語で実務をこなすことは難しいので、派遣先として日本人技術者の指導が受けられる日系企業の海外事業所を検討しました。本年は、地元の(株)TYKのご好意により、米国ペンシルバニア州ピッツバーグ近郊の、TYK AMERICA INC.に7月27日から8月23日までの約1ヶ月間、学生1名を派遣しました。

派遣した学生の専門分野は派遣先企業とはかなり異なるにも関わらず、帰国後の実習報告では多数の海外技術者や多様な文化との接触を通して技術の知見を広げるとともに、海外生活に自信をつけるなど、大変有意義な1ヶ月であったことが伺われます。

なおこのような事業は全国の高専でも初めてということもあり、今後の発展を期して教官2名が往路同行し、米国のインターンシップ事情についての調査を行ないました。

この事業は、本校教育後援会の国際交流基金の援助によって実現することができたもので、温かいご支援に深く感謝いたします。



海外インターンシップに参加して

建設工学専攻1年 山 元 一 弘



今年の夏休み、海外インターンシップで、アメリカのTYK AMERICA INC.という会社へ実習に行かせてもらえました。学校から海外の企業に実習に行くのは初めての試みらしく、いい機会を与えていただいて嬉しい反面、不安なところも多くありました。しかも海外にすら行ったこともなく、私の中ではこの実習は大きな冒険でした。一番不安だった事はやはり英語でのコミュニケーションでした。しかし、アメリカの風にふれていると、英語を話したくなるもので、英語に対して積極的になれたような気がします。仕事の方は身になるものであったし、現地のワーカーの人ともふれあえ、とてもいい経験でした。仕事だけでなく、休日にはメジャーリーグの観戦に行くなど有意義に過ごせました。最高峰で活躍する松井やイチローの姿を直に見て、憧れを抱きました。いろいろなことがあり、本当に楽しかったです。今回、このような素晴らしい経験をさせていただいて本当に感謝しています。もう既に国際社会です。英語を身につけることは重要となります。そのために、今後、たくさんの学生が海外インターンシップへおもむき、経験を積んで欲しいと思います。また、英語の授業もより一層力を入れていくべきだと思います。私は海外インターンシップ生1号として恥じないように今後の勉強に励み、この経験を活かせるような将来設計を考えていきたいと思います。

退任にあたって

茫々、三十余年

一般科(人文) 青 木 成 一

昭和44年に本校に赴任して以来、もう34年に入っている。あと数ヶ月、と思うと感無量である。定年ですよ、といわれてもどうもピンとこないというのが実感であるが、この歳月を一口で述べよといわれてもとても無理である。そこで兼好法師ではないが、心にうつりゆくよしなしごとをわずかばかり書き連ねてみる。赴任したばかりで特に記憶がないはずの昭和44年が妙に忘れがたい。服装問題、文書問題などで様々な自由化を学生達が要求し、なかには高専解体をとなえる者まで出現した。連日深夜まで教官会議が続き、皆グロッキーになったことなど、今では夢のまた夢である。とうの昔に廃止されたが、2年生の修学旅行も思い出深い。山陰・山陽・東北などを巡ったが、夜遅くまで騒ぐ学生達を監督して、我々もがんばったことが懐かしい。その牧歌的な学校が、生き馬の目を抜くようなあわただしい学校になってきた。老兵は去り行くのみである。

「できるとき」に「できることをする」

環境都市工学科 島 崎 磐

早い時期から、在職中を回顧する機会を与えていただきながら到とう原稿提出の前日になりました。今日は日曜日です。ここ数年来、仕事の捗るのは日曜日と決まっています。人数の少ない校内はやはり落ち着きます。これは、私にとっては幸いなことですが、人によっては「高嶺の花」かも知れません。つまり「甲の薬は乙の毒」という諺が教える通りでしょうか。でも最近では、けっこう他の教官室にも明かりが目につきます。こうした現象は、多様化してきた高専での教育・研究活動へのひずみの現われではないかと思われてなりません。兎も角、私に関しては仕事処理能力の低下がもたらす所業であることを一番よく知っています。赴任した当時の昭和40年代初頭は、「ゆったり」とした学内雰囲気があり、学生や教職員は「じっくり」と考えて行動することができたと思います。たとえば、講義も「休講」が罷り通っていた時代です。しかし、学生は帰宅できませんからお守をしなければなりません。そこで助手の私が登場します。よく学生達とソフトボールをして時間潰しをしたものです。初めのうちは、ボールを受けるのもままならず眼鏡をよく壊したものです。でもソフトボールには何か惹かれるものがありました。体を動かすことの楽しさを「学生」や「休講」から学びました。水泳は今日まで続けています。私にとっては、当時の校風から実に大きな財産を提供していただいたことになります。ソフトボールでは職員チームに参加し、早朝練習をしたり、日曜ごとの試合に出かけては活躍(?)もしました。地域での活躍は目覚ましいもの(?)がありました。ここで、地域の人々との連携を深め、出会いを大事にしては思い掛けない所で人的支援を受けてきました。また、忘れられないのが本年度の球技大会です。ある先生から「先生最後のソフトボールと一緒にしませんか」と誘いをうけ、楽しい一時と貴重なシメの思い出を演出していただきました。振り返ってみると、病気がちであった学生時代とは違って、この38年間、よく休講もせず元気に務めることができたと感じています。これは、赴任間もない頃のスポーツへのアクションがあったこと、そして、これまでに「出会った多くの方々」から人間的な触れ合いの大切さを教えていただいたことや豊かな職場に恵まれたことのお陰であったといえます。今では「休講」は「悪事千里を走る」の喩えになりますが、これからも時代と共に変遷する社会背景を見失わず「できるとき」に「できることをする」をモットーにして「しなやか」に過ごして行きたいものです。



お 知 ら せ

◎ロボコン報告

残念！

去る10月12日に福井高専にて開催されましたロボットコンテスト2003東海北陸大会は、本校学生の健闘も空しく、今年も残念な結果となりました。来年こそ期待しましょう。



福井高専にて

◎寮生スキー研修

平成16年1月17日(土) 行き先 めいほうスキー場

◎吹奏楽部第37回定期演奏会

平成16年1月17日(土)13時～ 場所：羽島市文化センター（058-393-2231）

入場料：前売券300円 当日券400円 お問い合わせは羽渕教官まで（058-320-1355）

猛練習の成果を是非聴きにきてください。

◎第37回卒業式・第8回専攻科修了式の挙行

平成16年3月19日(金) 10時～

場所 岐阜工業高等専門学校第一体育館

◎教育後援会役員会

平成16年3月20日(土) 10時30分～13時（後日連絡いたします）

◎第42回入学式・第10回専攻科入学式の挙行

(本 科) 平成16年4月6日(火) 9時20分～ 本校：第一体育館

(専攻科) 平成16年4月6日(火)13時30分～ 本校：大会議室

☐平成16年度教育後援会総会☐

日時 平成16年4月6日(火) 10時～

場所 岐阜工業高等専門学校第一体育館

昨年より1人でも多くの方のご出席をお待ちしております。

命に乾杯！

1年保護者 水野 純子

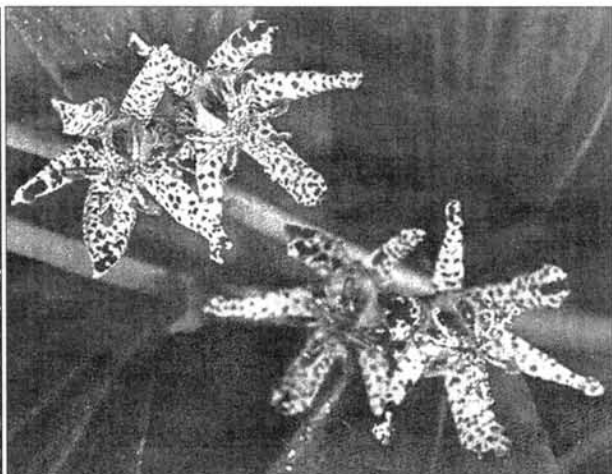
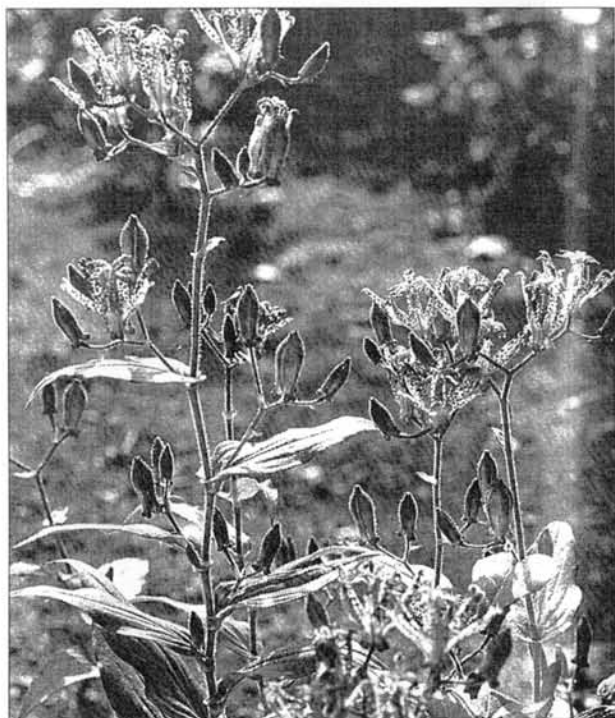
岐阜工業高等専門学校の創立40周年おめでとうございます。4月の式典後の記念講演は、丸山浩路さんの『本気で生きよう！何かが変わる』でした。私にとって二回目でしたので、今回も楽しみにしていました。ナンバーワンよりオンリーワンは、七年前に聞いて感動したものです。

今回も、いつものように体全体を使って表現される姿には、再び感銘を受けました。命や個性を大切にしながら、精一杯生きることの素晴らしさを改めて感じました。聾教育に携わったことがある私は、手話が少し分かり見入ってしまいました。

お礼の手紙を書いて丸山さんに郵送すると、直筆の手紙を添えて手話の本も送られてきてびっくりしました。とても嬉しくて私の宝物となっております。

娘は、今年から高専で学んでおります。自他の命を大切にしながら、多くの人に支えられて成長してきたことに感謝の念を常に持ち、何事も前向きにチャレンジしてくれることを願っています。

『高専の樹の花・草の花』シリーズ4



ホトトギス(杜鵑草)

ホトトギス属は、東アジア、インドにわたって約20種が知られ、そのうちの約半数が日本に分布している。本種は花被片(花弁のように見える)に紫斑があり、それが野鳥のホトトギス(杜鵑)の胸斑に似ている。本校では3号館の南庭に咲いている。

編集後記

今回初めて保護者懇談会にご一緒させて頂き、子を思う熱心な保護者の方々、それゆえ多くの質問があり、しばし、時を忘れる程の価値ある懇談会だったと思いました。

今後も多数の御出席と教育後援会「ちから」へのご投稿をお待ちしています。

内藤

発行：岐阜工業高等専門学校 教育後援会事務局 TEL・FAX (058) 323-8752
〒501-0495 岐阜県本巣郡真正町上真桑2236-2 E-mail: sui4@gifu-nct.ac.jp